



Vol.8

このコーナーでは、小田川市長が掲げる今年の漢字「地」にちなんだまちづくりを紹介します。



今日の防災は、明日の笑顔に。

岡 伊奈庁舎防災課（内線 2502）

大 正12年9月1日に発生した関東大震災から、今年で100年。国では、毎年9月1日を「防災の日」とし、防災に対する認識や準備を再確認する日と定めています。
昨年12月、つくばみらい市に全国最年少となる防災士が誕生しました。富士見ヶ丘小学校に通う安藤希子さん（現在4年生）は、母の純子さんと一緒に防災士の試験を受け、見事合格しました。
今月号の特集では、全国最年少防災士の希子さんと、同じく防災士の母・純子さんに、防災士を目指したきっかけや防災で気を付けたいことなどについて、お話を伺いました。

「釜石の奇跡」に心を動かされて

希子さん：小学1年生の時に、東日本大震災時に小中学生が全員無事に避難した「釜石の奇跡」の再現VTRをテレビで観て、「防災について勉強したい」と思い、防災士を目指しました。もともと防災に興味があって、幼稚園のころから防災に関する本をよく読んでいましたが、小学生になってからは、より専門的な本も読むようになりました。

純子さん：防災士の試験に年齢制限はありませんでしたが、子どもだけで受けるのは難しい試験だったので、「娘が頑張るなら私も一緒に頑張ろう！」と思い、2人で試験を受けました。

希子さん：試験勉強は、お母さんと一緒に頑張りました。「防災士教本」などで勉強しましたが、読めない漢字や難しい単語がたくさん出てくるので、お母さんが分かりやすくノートにまとめてくれました。「いばらき防災大学」で防災に関する講義も受けましたが、火災保険と地震保険に関する講義は難しかったです。



防災士とは



防災に対する十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを、日本防災士機構が認証した人のこと。資格取得に年齢制限は無く、全国でおよそ26万人が取得している（令和5年7月末時点）。



◀希子さんが幼稚園のころから読んでいた「こどもぼうさい・あんぜん絵じてん」（三省堂）は、分かりやすい絵と解説で防災について紹介している。小学生から読み始めた「生き延びるための地震学入門」（幻冬舎）は、表紙がボロボロになるまで熟読されている。